



子どもの森づくり通信

発行：NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク

J P子どもの森づくり運動
参加園月例会報
(2023年1月号)

〒146-0082 東京都大田区東矢口2-6-14 tel:03-5755-3213 fax:03-5755-3081
https://www.kodomono-mori.net mailto:info@kodomono-mori.net

「J P子どもの森づくり運動」とご縁をさせていただいた方々に、
活動情報をお送りさせていただいております。ご意見など賜れば幸いです。

<今月の1枚>



新年おめでとうございます。

J P子どもの森づくり運動は、今年も、一生懸命参加園の皆様の保育・幼児教育を
サポートさせていただこうと思っております。よろしく願い申し上げます。

2023年第1号の「子森通信」をお送りします。

今月号には、リレーエッセイをご担当いただいております

北海道教育大学の能條先生に巻頭エッセイをお願いしました。

これからの運動の指針となる、とても興味深い内容です。

皆さんの保育の参考になれば幸いです。

(* 写真：雪の中で春を待つどんぐりの苗木)

(目次)

1. J P子どもの森づくり運動 2023年新春巻頭エッセイ (「リレーエッセイ」スペシャル)
2. J P子どもの森づくり運動「全国集会 & 研修会2023」(埼玉大会) 参加者募集中
3. 事務局からのお知らせ：参加園の活動を紹介するYouTubeチャンネルが始まりました。

■「J P子どもの森づくり運動」とは

今、子どもたちは、高度な情報化社会の中でバーチャルな環境に取り囲まれ、本物の自然体験活動から遠ざけられています。しかしながら、子どもたちは、変化に富んだ自然体験活動の中でこそ、五感を通じて豊かな感性や健全な環境意識、そして子ども本来の生きる力を育みます。「J P子どもの森づくり運動」は、NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク(「子森ネット」)が「日本郵政グループ」との協働体制で、全国の保育園・幼稚園・こども園を拠点に、一貫した森づくり活動を通じて幼児期の子どもたちに自然体験活動と環境学習の場を提供しようという全国運動です。

■「J P子どもの森づくり運動」運営体制

- ・運営：NPO法人 子どもの森づくり推進ネットワーク(「子森ネット」)
- ・特別協賛：日本郵政グループ
- ・主な後援/協力/連携団体

(公社)全国私立保育連盟

NPO法人 富良野自然塾

(公社)大谷保育協会

(公社)こども環境学会

保育環境研究所ギビングツリー

国際校庭園庭連合日本支部

(公社)国土緑化推進機構

(一社)日本森林インストラクター協会

郵便局の魅力を発信するメディア「JP CAST」は
下記QRコードからご覧いただけます。

郵便局の魅力を発信するメディア

JP cast



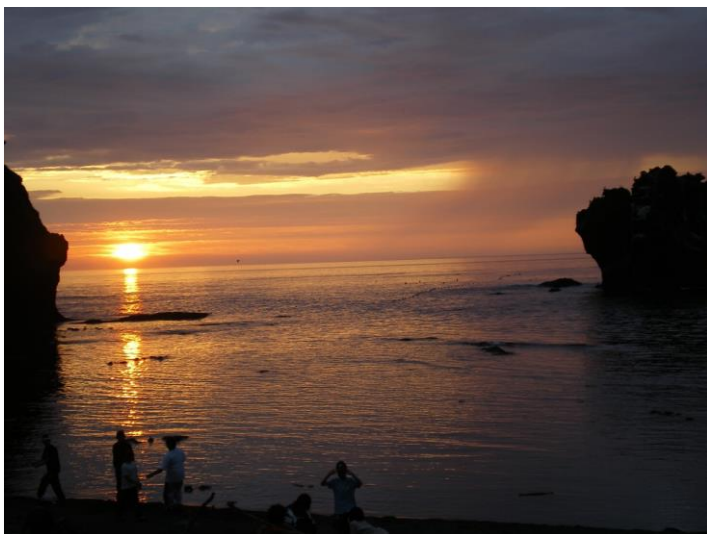
1. JP子どもの森づくり運動 2023年新春巻頭エッセイ（「リレーエッセイ」スペシャル）

保育・幼児教育とSDGs～こども達への“ギフト”～

北海道教育大学教育学部 岩見沢校 アウトドア・ライフコース 教授 能條 歩

先日、今年のJP子どもの森づくり運動のテーマが「幼児教育とSDGs」になったと伺いました。多くの場面でSDGsに関することが話題になる昨今ですので、年頭にあたり、あらためて「幼児教育とSDGs」について考えてみたいと思います。

SDGsは「持続可能な開発目標」と訳されています。ここでいう“持続可能”は単に「中断しないで長続きすること」を指すだけでなく、「将来世代のニーズを満たす能力を損なうことなく、今日の世代のニーズを満たす」という特別な意味になっています。そして、この場合の“ニーズ”も、「消費者のニーズを満たす」というような時に使う“ニーズ”とは異なり、「生きるのに必要なもの」「健康で文化的な生活水準を維持できること」という意味になっています。この“ニーズ”と対になる言葉は“ウォンツ”で、「あったらうれしい（けどなくても生きられる）もの」という意味になります。つまり、「ニーズを満たす」は「欲しいものを欲しいだけ」ということではなく、「健康で文化的に生きていくのに必要なものが手に入る」という意味になります。また、“開発”も「森林を都市のように開発する」というようなことではなく、「今より良い状態に発展させる」というような意味で使用されています。SDGsはこの理念を実現するために、2030年までに成し遂げようと世界の国々が約束したゴール（目標）というわけです。



このような考えで、「人権への配慮」「環境・社会・経済の調和」をベースとした17のSDGsが2015年に合意され、現在は2030年までの設定期間の折り返し点を過ぎたあたりに差し掛かりました。世界の国々が一致した方向性を目指して合意したことは高く評価できるものですが、環境教育的な観点からは少し注意しなければならない点もあります。たとえば、“ゴール”という言葉が使われてはいますが、SDGsはそれ自体が目的ではなく、持続可能な社会を実現させるための手段ですので、達成することも重要ですが、そこにばかり目がいって本来の目的を忘れてはいけません。また、人権に関する多くの配慮がなされています

が、そこが強調されすぎると人目線の環境意識だけになってしまうという懸念もあります。さらに、「環境・社会・経済の調和」が重要視されていて、「環境は社会と経済を支える最重要ポイント」とされてもいますが、意識されるのが「社会と経済を支えるものとしての環境」だけになってしまうと、人にとって有用な自然環境（たとえば資源やエネルギー）にしか目がいかなくなる危険性があります。SDGsの17目標のそれぞれには、ターゲットと呼ばれる具体的数値目標などがありますが、その中に本来の自然のありようそのものを保障するような項目はあまりありません。



このように、「人と自然の関係性を考え直しつつ真の自然共生社会を目指す」という観点で見ると、世界の現状がSDGs以下の状況にあることや、（社会や経済のことでだけではない）自然に対するさまざまな“価値”に気づくことも必要だと思わされます。とはいえ、私たちがヒトである以上、社会や経済がうまく機能することが重要だという考えを持つのも当然のことです。問題は、「自然環境のダメージが小手先の手当てではもう賄いきれない状況にあることをどれだけ考えられるか」にあります。私たちは、自らが

行ってしまっている自然へのインパクトに対し、これまでのような小手先の手当てを繰り返すやり方を、ダメージを与えずに済むような“接し方”に変えなければいけません。そしてこれから先の未来を考える時、特に子どもたちにはこうした“接し方”を身につけてもらわなければなりませんし、私たちが気づかないでいるようなことにも気づける感性を育ててほしいとも思います。

先月のこのコラムで、生態系サービスの中で最も認知度が低いのが“文化的サービス”であることをご紹介しました。先に述べたSDGsが「人目線」「守るべき自然とは天然資源のこと」という発想になっているのではないかと懸念が、そこにも現れているような気がしませんか？「豊かな感性や美意識」「畏敬の念や自然との一体感」「教育やレクリエーションの場としての意義」などは自然から私たちに与えられている“ギフト”であり、その“ギフト”が持続可能性を考えるにあたって重要なのだと認知されなければ、それらが子どもたちの育ちの場に必要という意識も共有されないかもしれません。

SDGsは2030年までの短期目標に過ぎません。私たちにはもっと長い目で未来を見据え、post-SDGs時代を生きることもたちにとって本当に必要な“ギフト”としての“文化的サービス”や自然体験を考えることが求められるのではないのでしょうか。

【著者近況】

明けましておめでとうございます。

本年が世界中の子どもたちにとって素晴らしい一年になることを祈念しております。

あっという間に師走も過ぎ、新年がやってきました。北海道の小中学校などは1月の20日近くまで冬休みです。大雪警報とか暴風雪警報とかが日常的に聞かれるような季節なので、ある意味当然かもしれません。しかし、大学は4日から授業が開始になり、共通テストがあったり卒論の提出締め切りが近づいてきたりで師走以降のドタバタが加速中の感じです。COVID-19もそうですが、文句を言ってもどうにかなるものでもないですし、誰に言ったらいいかもわからないので、悟りの境地です。これが畏敬の念を持つということかもしれませんね。



2. JP子どもの森づくり運動「全国集会&研修会2023」(埼玉大会) 参加者募集中

毎年恒例の「全国集会&研修会2023」(以下「集会」)について最終のご案内です。今回の集会では、玉川大学の大豆生田先生を基調講演の講師に迎え、持続可能な時代を生きていく子どもたちの環境の心を育む「幼児期の環境教育とSDGs」についてみんなで考え、議論する機会としたいと思います。申し込み締め切り日が迫っております。皆様の積極的なご参加をお待ち申し上げます。詳細・参加お申し込みは、別紙チラシをご参照願います。ホームページからもお申し込みいただけます。

●開催概要

- 開催日：2023年2月14日(火)、15日(水)
- 開催地：さいたま市子ども家庭総合センター「あいばれっと」子ども研究センター(京浜東北線「与野駅」徒歩7分)
- 主催：JP子どもの森づくり運動「全国集会&研修会2023」実行委員会
- 特別協賛：日本郵政グループ
- 参加費：※会場参加(3000円/1日) ※オンライン参加(1500円/1日) ※1日のみの参加可
- 申し込み締め切り：2023年1月31日(火)

●内容

- 1日目(2/14)：JP子どもの森づくり運動 2022年活動発表
- 2日目(2/15)：全国集会&研修会
 - 1) 基調講演：玉川大学教育学部 教授 大豆生田 啓友先生～幼児期の環境教育とSDGs～(オンライン)
 - 2) パネルディスカッション：基調講演を受けて、パネラーと参加者によってテーマを深堀りします。
 - *パネラー：北海道教育大学 能條 歩先生 田園調布大学大学院 仙田 考先生
浦和ひなどり保育園 園長 丸山和彦先生 三茶こだま保育園 園長 石田亜由美先生
 - 3) JP子どもの森づくり運動 2023年度活動案内

●講師紹介

| | | | |
|---|---|--|---|
|  |  |  |  |
| 【基調講演】 玉川大学教育学部 乳幼児発達学科 教授 大豆生田 啓友先生 | 【パネルディスカッション】 北海道教育大学 教育学部 教授 能條 歩先生 | 【園庭緑化運動】 田園調布学園大学大学院 人間学研究科 准教授 仙田 考先生 | 【保育防災】 消防庁アドバイザー (株)タフ・ジャパン 代表 鎌田修広氏 |

3. 事務局からのお知らせ：参加園の活動を紹介するユーチューブチャンネルが始まりました。

子森ネットでは、2023年度、動画による情報発信を強化します。先行して、参加園で行われている様々な活動をご紹介するユーチューブチャンネル「子森どんぐりスタジオ」を開設しました。

第一回目の放送は、鹿児島県の「こども園ほしのこ」さんです。

⇒ <https://www.youtube.com/watch?v=wTp8Cn7F1Hc>

***右のQRコードからも御覧いただけます。**

これから、全国の参加園さんの活動を取材してご紹介させていただきたいと思います。

わが園のこんな活動を紹介して欲しい等のリクエストがあれば、是非、ご連絡下さい。

芋掘りや、キャンプなどなど、活動内容は、園児さんたちのいきいきとした活動ならなんでもOKです。

皆さんからのご連絡をお待ち申し上げます。チャンネル登録やいいねボタンもよろしくお願いします。

